

0歳児

0歳児

行事	<ul style="list-style-type: none"> 誕生会 避難訓練 	クラスのようす	<ul style="list-style-type: none"> 1名入園（担任＋フリー） 同じ保育者が新入園児につくことで、全体が大きく不安になることもない。 大きい子どもを中心に見立て、つもりあそびが出てきている。 	（養護・教員） ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 気温の変化や一人ひとりの体調に留意し、健康に過ごせるようにする。 新入園児も含め、個々の状態に合わせて生活リズムを整えていく。1回寝・2回寝どちらの子どもも24時間トータルで睡眠を整えられるように見ていく。
----	---	---------	--	----------------	--

食育・健康への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 朝夕と日中の気温差が大きく、体調も崩しやすい。一人ひとりの体調に留意し、健康に過ごせるようにする。室内の温度調節や、換気をこまめに行う。 活動が活発になってくるので、探索活動を十分に保障できるような環境を整えるとともに、子ども目線で安全確認をしっかり行う。 	職員間の連携	<ul style="list-style-type: none"> 新入園児が安心して園生活に慣れていけるよう、保育者が一人つき、ほかの保育者と連携をとっていく。 しぐさやことばで思いを伝える姿が増えてきている。いろいろなあそびや玩具など、何に興味をもっているのかを共通理解していく。
-----------	---	--------	---

保育者のかかわり

○食事から午睡への流れのなかで、心地よく入眠していく。
△ごちそうさまをしたあと、衣類を脱ぎ、着替えをして、気持ちよく入眠できるように声をかけて介助をしていく。

○秋の自然にふれ、戸外あそびを楽しむ。
△草や実・虫などの自然物に興味を示したときに、その目先にある物に応答的に対応する。


○育てたい内容 △保育者のかかわり

1 週 2 週 3 週 4・5 週

散歩に出かけ、秋の自然にふれよう

新入園児初登園 出合いの保育

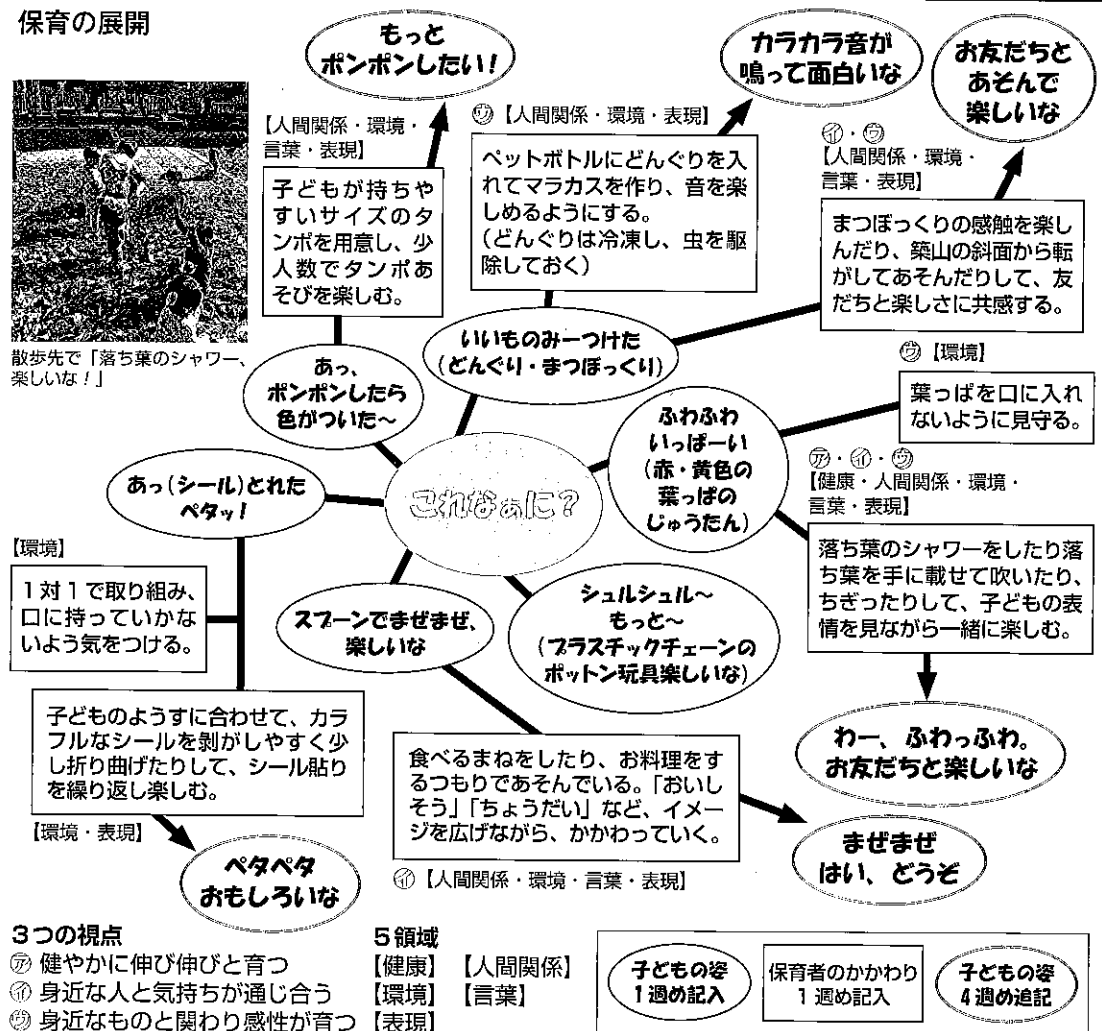
造形 タンポあそびを楽しもう



わらべうた「米屋のちゅーちゅー」(2次元コードから動画をご覧いただけます)

	子どもの姿 (前月末)	子どもの育ち (ねらい・内容)	保育者のかかわり (環境・かかわり・配慮)	反省・評価
A児 (1か月)	<ul style="list-style-type: none"> 公園で葉っぱを見つけて拾い、ギョッと握りしめ、「えー」「あー」と嬉しそうに声を出す。 スベリ台の斜面を腹ばいで上ろうとするがすべて上れず、しかめ面になって下りる。 	<ul style="list-style-type: none"> 葉っぱや身近な生きものを見たり触れたりして、季節を感じる。 意欲的にハイハイや斜面上りなどを楽しみ、全身を動かす心地よさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 戸外あそびや散歩に出かけ、安全な場所で一緒に葉っぱや木の实を見つたり集めたりして自然物に親しめるようにする。 ゆるやかな斜面を用意し、安全に気を配る。上りにくいときには、足指を使って上れるようにさりげなく足指を支えて達成感を得られるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 葉っぱを拾ったり、振ってみたり、いろいろなあそびをして楽しんでいた。興味深まるように、来月も暖かい日には自然物に触れていきたい。 ゆるやかな斜面を用意することで上ろうとする姿が増え、介助し上れたときは笑顔も見られた。今後も斜面あそびを楽しみたい。
B児 (1歳3か月)	<ul style="list-style-type: none"> 手を洗うと、自分のエプロンがかかっている席に向かい、ニコニコしながらエプロンをつけるが、座ると早く食べたて泣き出す。 砂場用のスコップで砂をすくおうとするが、うまくすくえず怒る。砂が入っている器やコップを持っては「おいちー」という。 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちよく「いただきます」をして食べ始め、自分で食べることを楽しむ。 保育者や他児とやりとりをしながら砂をすくったり、器から流したり、イメージを膨らませて、のびのびと砂あそびを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事の介助をすぐに始められるように手洗いの順番を工夫したり、手づかみで食べやすい一口サイズのおかずから机に用意したりして、自ら食べ始めるようにしておく。 自分で楽しめるように、持ちやすい小さめのスコップやカップを用意する。保育者も一緒に砂をすくったりしてあそび、楽しさに共感していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が介助につかないと食事が始まらないというように泣いて怒っていたこともあった。だが、始めに食べやすい食材を手づかみで食べるよう進めていくことで、エプロンをつけることと嬉しそうに自分で食べ始める姿が見られるようになった。今後もB児に合わせて、進め方を考えていきたい。
C児 (1歳6か月)	<ul style="list-style-type: none"> 便器に座ると排尿することがあり、出たあとは便器の中をのぞき込む。 シールを画用紙に繰り返し貼り、貼れたら保育者と一緒に拍手をして嬉しそうにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 排尿の間隔があき、尿が溜められたり、トイレに興味をもったりして、タイミングが合ったときには排尿し出しきる心地よさを感じる。 シールが指に貼りつく感覚や、紙にくっつく面白さを保育者と共有し、指先を使ったあそびを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が排尿の間隔や量などを把握し、トイレや排尿に関する興味があるかどうか見通す。トイレでの排尿で出たときには「出たね、すっきりしたね」と出しきった心地よさに共感する。 親指と人差し指でつまみやすい大きさのシールを選び、台紙から半分割がして渡すなど、C児のようすに合わせて準備し、「ベッタン」「ひっついたね」と楽しい思いに共感していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 午睡後など、尿がたまっているときにトイレで排尿することが多かった。早々に立ち上がる時は部屋に戻りたいからで、トイレを嫌がることはなかった。今後も排尿間隔や興味などようすを見ながら、トイレで尿を出しきる心地よさを感じられるようにしていきたい。

保育の展開



もっとポンポンしたい!

カラカラ音が鳴って面白いな

お友だちとあそんで楽しいな

【人間関係・環境・言葉・表現】
子どもが持ちやすいサイズのタンポを用意し、少人数でタンポあそびを楽しむ。

【人間関係・環境・表現】
ペットボトルにどんぐりを入れてマラカスを作り、音を楽しめるようにする。(どんぐりは冷凍し、虫を駆除しておく)

【人間関係・環境・言葉・表現】
まつぼっくりの感触を楽しんだり、築山の斜面から転がしてあそんだりして、友だちと楽しさに共感する。

【環境】
葉っぱを口に入れないように見守る。

【健康・人間関係・環境・言葉・表現】
落ち葉のシャワーをしたり落ち葉を手に乗せて吹いたり、ちぎったりして、子どもの表情を見ながら一緒に楽しむ。

わー、ふわふわ。お友だちと楽しいな

まぜまぜ はい、どうぞ

【人間関係・環境・言葉・表現】
食べるまねをしたり、お料理をするつもりであそんでいる。「おいしそう」「ちょうだい」など、イメージを広げながら、かかわっていく。

【環境】
1対1で取り組み、口に持っていけないよう気をつける。

【環境・表現】
子どものようすに合わせて、カラフルなシールを剥がしやすく少し折り曲げたりして、シール貼りを繰り返す。

【人間関係・環境・言葉・表現】
【健康】 【人間関係】 【環境】 【言葉】 【表現】

3つの視点
 ⑦ 健やかに伸び伸びと育つ
 ⑧ 身近な人と気持ちが通じ合う
 ⑨ 身近なものと関わり感性が育つ

5領域
 【健康】 【人間関係】
 【環境】 【言葉】
 【表現】

子どもの姿 1週め記入
 保育者のかかわり 1週め記入
 子どもの姿 4週め追記

家庭との連携
 ○保育園では、子どもの排尿前のしぐさ等をつかみ、オマルに無理なく結びつけている。家でも同じようにしようと、何度もオマルに誘っているという保護者もいた。しっかり膀胱にためてから排尿し、すっきり出しきることの大切さを保護者に伝え、焦らず進めていくようにはたらかせる。

○朝晩の気温差が大きくなってきたため、厚着にならないように調整がしやすい綿の薄手の長袖Tシャツ等の具体例をあげ、家庭と園で連携して子どもの体調管理に気を配っていく。

ふりかえり
 ○新入園児を迎え、9名になった。クラスの雰囲気も少し不安定になったが、新入園児には特定の保育者がつき、保育者はできるだけバタバタ移動せず、子どものようすに合わせて対応できるようにした。その結果、落ち着いた生活できるようになっていった。また月齢の大きい子どもの中には、泣いている子どものそばに行き、のぞき込んだり、かかわろうとする姿もあった。今後も、子どもの発達・月齢だけでなく、子どものようすに合わせて安心して生活できるように見ていく。

○歩行がしっかりしてきたり、まだ腹ばいだったりといった運動面だけでなく、発達差は大きい。あそびや散歩など、できるだけ分かれて生活し、子どものニーズや発達にそってかかわり、ちょっとした表情や指さし喃語にも対応できるようにした。